

なつあし

2012 夏



奈良教育大学イメージキャラクター
「なっきょん」

奈良教育大学 広報誌

NARAYAMA

NARA UNIVERSITY OF EDUCATION'S
SEASONAL PUBLICATION

<題字>名誉教授 池田 桂鳳

特集

奈教で 教員になる!

～奈良教育大学の教員養成～

羅針盤

附属幼稚園での
「科学の日」プロジェクト

クローズアップ

教室における規範逸脱行動
を研究する

出口拓彦准教授

ラボ・レター

構成・デザイン

シーボルド千佳子研究室

なっきょん's CLUB 企画

奈教のひみつ

ブカツ魂!

ウインドアンサンブル



CONTENTS



2 特集 奈教で教員になる! ～奈良教育大学の教員養成～

7 羅針盤 附属幼稚園での「科学の日」プロジェクト ～子どもたちの瞳に科学の輝きを～

10 クローズアップ 教室における規範逸脱行動を研究する出口拓彦准教授

13 ラボ・レター 構成・デザイン シーボルド千佳子研究室

14 hito・あれ・これ 中学校の国語教諭として奮闘する山田哲史さん

15 なっきょん's CLUB企画 奈教のひみつ～学内施設紹介～

17 留学生レポート ハイデルベルク大学(ドイツ) 古川仁美さんとウェーバー モーリス ミヒエルさん

19 キラリ☆奈教生 世界遺産を自分たちの手で ～十津川道普請に取り組むユネスコクラブ～

20 フカツ魂! ウインドアンサンブル

20 活躍する奈教生

21 キャンパスニュース

22 奈良に息づく仲間たち

23 奈教生に聞きました! こんな教員になりたい

ブックレット紹介

奈良教育大学出版会より、
新たに右の2点が出版されました。
定価: 各1,000円(税込)

奈良教育大学生協のほか、
東山書房HP、amazon、
一部書店で購入できます。



『母子の絆』
—健康な母と子を育む—
カルシューム栄養—
米山 京子 著



『『ひまわり』教師への道』
—教職大学院生の学び—
奈良教育大学教職大学院
ブックレット作成委員会 著





奈教で教員になる！

～奈良教育大学の教員養成～

奈良教育大学では、入学後の早い時期から学校現場で子ども達に接して、教科指導のための専門的な知識と指導力、子どもたちの成長や発達に関する確かな知識と個々の問題への洞察をふまえた臨床的力量、学校経営の企画力やコミュニケーションなどの対応力を自分のものにするカリキュラムを用意しています。これらは、本学が定める＜新任教員に求められる資質能力目標に基づく教員養成のためのカリキュラム・フレームワーク＞を通じて、教育学部卒業までに獲得すべき新任教員に求められる資質能力目標に照らして、各授業科目から何を学び、どのような資質能力を身につけたかを自覚しつつ、教育実践力を備えた教員に向けて学びを積み上げていくことができます。^{※1}

また、理数、特別支援、食育、福祉、文化遺産など、希望に応じて自分の得意分野にさらに磨きをかける特色プログラムを用意しています。



教育実習での研究保育。
教員や他の実習生が見守ります。

4年間の大まかな流れ^{※2}

自作のワークシートや指導案

奈良教育大学の教員養成カリキュラムでは、「教科系列」「実践系列」「教職系列」の大きく3つの系列に沿って科目を編成しています。「教科系列」では、各教科の指導方法や指導内容について学びます。「実践系列」では、学校や園などの現場で体験、観察、実習を積み重ねることで、教育実践に関する知識と方法・技術を学びます。「教職系列」では、教育学や心理学に裏付けられた理論や方法を学びます。^{※3}



自分の担当授業にむけて遅くまで模擬授業を繰り返す

	1 回生	2 回生	3 回生	4 回生
	導入的・基礎的な内容の学習や教育実習に向けての知識・能力・態度面での準備を行います。		より実践的・応用的な内容を学ぶとともに、教員養成カリキュラムで習得した知識や能力の総仕上げを行います。	
実践系列	・教職入門(母校訪問) → P3へ ・現代教師論(附属学校訪問)	・教育実習スタートアップ(実習参観) ・教育実践基礎演習など	・教育実習事前指導 ・教育実習事後指導 ・教育実習 → P5へ	・教育実習 → P5へ ・教職実践演習
教職系列	・教育基礎論 ・教育心理学など	・板書実践指導 ・教育方法・メディアなど	・生徒指導・教育相談Ⅱ ・道德教育の理論と方法など	

※1 カリキュラム・フレームワークの詳細については、
http://www.nara-edu.ac.jp/research/05_curriculum.html
をご参照ください。

※2 取得する免許状の校種などによって、一部異なります。

※3 各講義のシラバスを公開しています。講義の詳細については、
<http://www.nara-edu.ac.jp/ADMIN/KYOUUMU/syllabus.htm>
をご参照ください。



教育実習中、研究授業後には批評会が行われ、それぞれの授業を振り返ります



1 回生の特色ある授業 教職入門

「教職入門」は1回生の前期(後半)に開講されます。4年後には教師として巣立っていく新入生たちが、教師という仕事への理解を深め、その力量形成のための第一歩を踏み出せるよう、さまざまな企画と工夫を盛り込んだ科目です。以下、平成24年度の授業内容とその特色について紹介します。

平成24年度授業内容

第1回 >>>>>>	全体オリエンテーションと「印象に残る学校体験」の交流
第2回&第3回 >	教師の仕事の諸相①② 思春期子どもたちと向き合う中学校教育の現場から
第4回 >>>>>>	教師の仕事の諸相③ 涙と笑いのハッピークラス・4年1組いのちの授業
第5回 >>>>>>	教師になるための学び 教育実習を終えた先輩に学ぶパネルディスカッション
第6回 >>>>>>	教師の仕事の諸相④ この学校がオレを変えた・浦商定時制の学校づくり
第7回 >>>>>>	教師の仕事と子どもの学び① 母校訪問の報告と交流
第8回 >>>>>>	教師の仕事と子どもの学び② 母校訪問・インタビュー計画の交流と全体のまとめ

特色その①

ベテラン先生の 実践に学ぶ!

学校という職場で長く仕事をしてこられた先生方の実践に学ぶことができます。ベテランの先生方を大学にお招きし、教師という仕事の困難や苦悩、その向こうにある希望や喜びについて、直接伺います。また、すぐれた実践の記録映像を見ることで、教育現場における今日的課題やその対策、取り組みについて知見を広めます。



北海道教育大学教職大学院教授(元滋賀県内公立中学校教諭) 福井雅英先生にお越しいただき、「思春期の子どもたちと向き合う中学校教育の現場から」というテーマでお話をしていただきました



教育実習を終えた上級生によるパネルディスカッション。数年後には、自分たちが後輩に話す立場になります

特色その②

上級生の体験に学ぶ!

教育実習を終えた上級生たちによるパネルディスカッションを通して、奈良教育大学での学習過程を知ることができます。これまでの学びや教育実習での体験など、教師を目指して歩んできた道のりについて先輩方から話を聞くことで、数年後のあるべき自分の姿を思い描けるようになります。

特色その③

主体的に学び、 学んだことを共有する!

授業全体を通して、主体的学びを重視しています。ベテランの先生方の諸実践や先輩方の経験を学んだ後は、グループで意見や感想の交流を行い、気づきや学びを共有します。また、母校を訪ねて行う恩師へのインタビューは、たくさんのかことを吸収するチャンスです。そこで得たものを報告し合うことで、更なる体験の共有を図ります。



母校の恩師にインタビューした結果を報告、それを受けて意見の交流を行いました

受講生の声



教育発達専攻
幼年教育専修 1回生
京都府立亀岡高等学校出身
はしづめ えり
橋詰 英里さん

教職入門の授業を受け、講演会参加やビデオ鑑賞をしてきた中で、自分の知らなかった学校の姿や先生と生徒の関わりを知ることができました。「涙と笑いのハッピークラス 4年1組の授業」というビデオでは、生徒同士でお互いを支えあい、うれしいことも辛いこともみんなで共有していたことがとても印象に残っていて、あんなクラスを作れるような先生になりたいと思いました。

受講生の声



教科教育専攻
数学教育専修 1回生
私立智辯学園高等学校出身
まつもと りょう
松本 顕良さん

入学当初、私は、なぜ小学校の教員を目指しているのにこれほど深い学びをしなければならないのかわかりませんでした。しかし、教職入門の授業で自分が解いた問題を解説するとき、自分が理解をしても学びが浅ければ理解してもらえず、それどころか正しく伝えることすら難しく思いました。学びを深める意味はここにあるのかと、今後の授業に取り組む姿勢を変えてくれた授業でした。



2 回生の特色ある授業 板書実践指導

2 回生時に開講されます。「漢字の基本点画の書き方」「ひらがなの誕生とその美」「漢字を整えて書く」などのテーマのもと、読みやすい字形からチョークの持ち方、大きな黒板をどのように使うのかなど実践的指導を受けることが出来ます。またデジタルカメラで記録した初期の板書と最終回の板書を比較し、自己評価も行います。このような板書に関する授業が必修授業として行われるのは、全国の大学で本学が初めてです。

担当教員より



美術教育講座 准教授
谷川 雅夫先生

現在ではパソコンの普及により書くことが少なくなり、書く力の低下が顕著です。しかし教育の場において、子ども達の学習理解は教壇に立つ教師の板書力にかかっています。この授業では板書する文字を美しく書けるように、黒板とチョークを使って実践的に学ぶ“教師力”を高める授業です。教育実習に自信を持って臨めるようここでしっかりと腕を磨き、採用試験の模擬授業でも堂々と板書して合格をゲットしてください。

特色プログラム

自分の興味や得意分野に磨きをかけられます！

SST 養成プログラム（新理数）

理科・数学（算数）に強い教員を養成するためのプログラム。優れた教育実践力と高い専門性を備えた Super Science Teacher(SST) を養成しています。子どもたちの理数離れが叫ばれる中、重要な役割を担っています。

食育・健康教育プログラム

学校における食育推進のリーダーとして、教材開発をはじめ、全校の年間指導計画の作成などに力量を発揮できる人材を育成しています。食育の必要性や考え方を体系的に学ぶ一方、子ども料理教室等における調理指導や、食品加工工場での実習などを通して、食育について実践的・体験的に学びます。

文化遺産教育プログラム

奈良の特色である文化遺産を対象とし、小学校、中学校・高等学校や地域での教育内容・方法を豊富化できる教員・教育者となることを目指します。

保育士試験受験応援プログラム

保育士試験受験者に対し、受験のサポートを行うと共に、履修指導のなかで保育士に必要な力量形成を図り、保育士としての資質を高めます。

その他、教育・心理探求プログラムや実践的特別支援教育プログラムなどが用意されています。

注目の施設 Close up!

教師力サポートオフィス

教育実践開発研究センター内に「教師力サポートオフィス」を設置しています。「ふかめる」「めざす」「つなぐ」「ささえる」の4つのキーワードを基に、教師になるために必要な能力や学ぶべき知識を身につけるためのサポートを行っています。

こんなことを行っています。

- 模擬授業・教育実習などに使う、教材作りの支援
- 教師力 100 冊の閲覧・貸出
- 教育をテーマにした、DVD・VTR の視聴、貸出
- 教育実習やスクールサポートのリフレクション
- 教職ノートの配布（中身の補充など）
- 学生主体の学習会の開催

モデル教室があります。



机・いす 24 セット、黒板（前面・背面）、電子黒板等を配置、実際の学校教室で使用されていた掲示物を掲示するなど、実際の学校教室を再現しています。

実際の学校教室を模したモデル教室があります。

現在、授業や教員採用試験対策（模擬授業・集団討論・面接）などに利用されています。模擬授業では、より現場に近い雰囲気練習することができます。



また、教室に常備しているおりがみ・画用紙等の文房具を使い、学生が教室環境整備を行っています。



3回生の特色ある授業 教育実習



生徒たちが理解しやすいように、試行錯誤を繰り返す

実習期間だけが 教育実習では ありません

教育実習を本当に意味のあるものにするために、「事前指導」と「事後指導」が行われます。「事前指導」は、教育実習生として教壇に立つための準備をする授業で、実習に関する基礎的なことを学んだ後、学校種（幼・小・中）ごとに分かれて、講義、観察実習、事例研究、ワークショップなどを通して教育実践を学びます。「事後指導」は、実習経験を振り返るための授業です。実習体験を発表したり、文章化したりしながら実習中の自分を見つめ直すことができるように、シンポジウム形式で実施されます。

奈良教育大学では、2度教育実習に参加する機会があります。1度目は、卒業要件に係る教育実習で、3回生時に原則として4週間実施します。2度目は、卒業要件以外に副免許の取得を希望する場合に必要な教育実習で、4回生時に行います。（実習先は、附属学校園、出身校、協力校のいずれかになります。）

実習中は、授業はもちろんのこと、それ以外の学級指導や課外活動、保護者への対応など様々な場面を経験し、実践的に学びます。また、担当する授業や保育のために、学習指導案（保育指導案）の作成や教材研究など、遅くまで準備を行います。

奈良教育大学教育 実習の特長

（特に附属学校園で
実習する場合）

特長 1

多くの学生が実習を行う附属幼稚園、附属小学校は、大学キャンパスに隣接しているため、教育実習の期間中であっても図書館や学生オフィスなどの施設を活用しやすく、実習仲間と情報交換を行いながら教材研究などの授業準備ができます。また、大学教員がすぐ近くにいるため、実習中に悩んで相談したくなったり、アドバイスをもらいたくなったりした場合でも、研究室を訪ねやすい環境にあります。

また、実習終了後もキャンパス内を登下校する附属小学校の児童に声をかけられることもあります。

特長 2

附属学校園での実習では、大学で一緒に学んでいるメンバーの多くと一緒に実習期間を過ごします。担当授業のための教材研究や模擬授業、担当クラスのための話し合いなども、普段から親しい仲間たちと刺激し合い、支え合いながら取り組むことができます。



事後指導のシンポジウム

受講生の声



教育学部学校教育教員養成課程
身体・表現コース 4回生
富山県立魚津高等学校出身
はやかわ けん と
早川 健人さん

教材研究など、担当する授業に向けてやらなければいけないことがたくさんあって大変ですが、生徒から「今日の授業おもしろかった」などと言ってもらえると頑張ろうという気持ちになります。生徒に満足してもらえる授業にするためにも、事前準備は欠かせません。

また実習中は、教員の授業以外の様子

など、自分が教わる立場だった時には見えなかった部分が見え、教員という仕事についてより深く知ることができます。

これから実習を経験する皆さんには、時間のあるうちに様々なことを経験しておくことをお勧めします。様々な経験が生徒との会話につながるなど、実習に役立ちます。

教職ノート

「教師力モデル開発プロジェクト」（平成22～24年度）の一環として、「教職ノート」を作成、配付しています。これは、質の高い教職の学びを得るためにつくられたガイドブックであり、ワークブックです。教員や学校について、カリキュラムについての解説・紹介や、教職科目で使用するワークシートが掲載されており、4年間の学習の履歴を振り返る資料となります。



4 回生 教採対策

就職支援室では、教員採用試験対策として様々な講座や模擬試験などを提供しています。

学長や本学教員から、教員採用試験受験者へエールが送られます



教採用対策講座・特別プログラム	勉強の仕方からエントリーシートの書き方、筆記試験対策、面接、模擬授業まで外部講師や本学教員が幅広く指導します。
教採用模擬面接・模擬集団討論・模擬授業	校長を務められた方を面接官にお迎えし、本番さながらの雰囲気の中模擬面接、模擬集団討論や模擬授業の練習をし、アドバイスを受けることができます。
教採用模擬試験	本学で実施している教採用模擬試験を一部のものを除いて無料で受験することができます。
教採用向け実技対策	音楽や体育、図画工作などの実技について指導を受けることができます。また音楽練習室やプール、体育館などの施設が練習場所として開放されている場合は、それらの施設を利用して練習することができます。
教採用向け就職相談員	長年教員を務められた方を相談員（本学 OB）としてお迎えしており、勉強の仕方や受験する自治体や校種別の特徴、自己分析など具体的に踏み込んで相談できます。
教採用向け参考書・過去問等各種資料等の提供	キャリアサロンには、教採に関する参考書等が置いてあり各種情報提供しています。グループで自主勉強するための模擬教室、ビデオカメラ等の貸出も行っています。

担当教員より

学長補佐(就職担当)、教授
みやした としや
宮下 俊也 先生

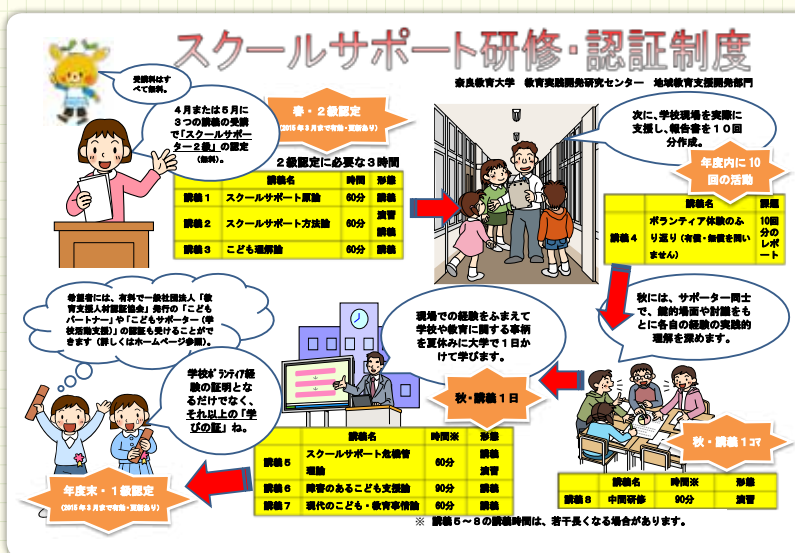


教員養成大学である本学は、優秀な教員を育成し世に送り出す社会的責任を担っています。就職支援室は教員採用試験に一人でも多く合格できるよう、模擬試験、面接や集団討論、模擬授業、実技支援、就職支援メールマガジンの発行、就職相談等によって、学生の進路に対する不安を安心に変え、学生同士が互いに切磋琢磨しあう大学風土を築いています。晴れて教職に就く夢が果たせるよう、これからも全学をあげて取り組んでいきます。

課外で教師力を高める 取り組みも !!

学校及び地域の教育支援活動に参加する「人材育成」を目的に、学校教育活動や子どもの人権・発達等に関する理解を深めた上で活動する研修と、実際の活動の中で学んだ事柄を理論的・反省的に理解し直す研修を平成 22 年度から実施しています。また受講した講座に応じて、「スクールサポーター 2 級」とそれよりもさらに上級の「スクールサポーター 1 級」の認証を行っています。

スクールサポート研修・認証制度



取得者の声

学校教育教員養成課程
教育・発達基礎コース
幼年教育専修 2回生
私立帝塚山高等学校出身
くほさえこ
久保 瑛江子さん
スクールサポーター2級



私は、スクールサポーターとして、小学校の特別支援学級に行かせていただいています。障害を持った児童以外にも、対人関係や家庭環境に悩む児童が在籍しており、現代の子ども達の悩みについて考えるきっかけとなりました。スクールサポーター研修・認証制度では、学校現場での体験を振り返る機会もあり、とても充実した制度だと思っています。参加してよかったです。





附属幼稚園での 「科学の日」プロジェクト

～子どもたちの瞳に科学の輝きを～

理数教育研究センター

センター長 ^{まつ やま とよ き} 松山 豊樹

1 はじめに

理科、数学(算数)が嫌いな子が増えていると言われてからずいぶん時間が経ったような気がします。いろいろ考えていくと、どうもこれは単純に理科・数学(算数)という科目が嫌いだという現象では捉えきれないことがわかってきます。若い世代のいわゆる「考える力」が弱くなっているとの指摘がなされています。むしろこの考える力の喪失が根本原因で、その力を最も必要とする理科や数学(算数)に強く影響が出ていると見るべきでしょう。

さらに考えなければならないのは「学習意欲」の低下です。国際学力調査の結果などをみても、日本の若い世

代の学習意欲は先進国の中で最低水準にあります。学力試験の成績の上下よりこのことの方が危機的ではないでしょうか？ 理科や数学(算数)を勉強していて楽しくないのです。学力のことを抜きにしても、考える力は重要な「生きる力」の1つです。その喪失は深刻です。逆に言えば、理科や数学(算数)はその力を育てる格好の舞台を提供してくれます。だから理数教育なのです。

本学では、平成17年度から理数科の特別な教育プログラムを開始しました。理科・数学(算数)に強い教員の養成が目的です。理数を楽しめない教員は、理数を楽しめる生徒を育てられません。それが何世代にもわたって伝播していきます。教師という職業の怖さです。



段ボールで作った空気砲を使った実験に、園児たちは大騒ぎ。





普段幼稚園ではできない
理科実験を体験しました。



2 子どもたちが考えること

教育プログラムは、学校教育の各段階に対応するために年次を進めるにつれて大きく成長して来ました。小・中学校の義務教育段階から高校教育、教員養成のための理数、大学院へ。そして今、重要な原点回帰に取り組み始めています。附属幼稚園の支援を得て就学前の子どもたちへ科学体験を提供する取り組みです。

子どもたちには、教科の分類はある意味関係がありません。たちまち素直に反応を返してきます。「おもしろい!」、「もっとしたい!」、「つまんない!」、「もういや!」と。考えてみると論理・抽象思考能力を、一体いつから獲得していくのでしょうか? よく言われるのは、「9.5歳の脳」です。子どもたちは、9歳半ぐらいから論理的思考や抽象的思考を獲得していくらしいのです。それでは、それ以前の幼年期の園児たちには、そもそも科学教育は無意味なのでしょうか?

突然ですが、この一節、

「むかしむかし あるところに おじいさんとおばあさんがいました。おじいさんはやまにしばかりに おばあさんはかわにせんたくにいきました。」

は、誰もが小さいときに聞いたのではないのでしょうか。また、お父さんお母さんになってから、お子さんに話して聞かせたのではないのでしょうか。そう、昔話の冒頭のくだりで、この後の展開によって、桃太郎や一寸法師やかぐや姫のお話になります。なぜこんなことを持ち出したかと言いますと、このくだりをよくよく読み返すと非常に抽象的かつ論理的なことが再認識されます。

「むかしむかし」っていつ? 「あるところ」ってどこ?

「おじいさん」「おばあさん」って一体誰? 「やま」ってどの山? こんな具合に、全然具体性がないのです。でも、子どもたちは、すんなり受け入れて心地よくお話を聞きます。さらに、このフレーズは理論物理学を専門とする私からみるとかなり論理的なのです。「むかしむかし」は「時刻 t 」に、「あるところ」は「位置 x 」に読めます。言わば、『変数』として解釈できます。「おじいさん」「おばあさん」は、年齢の高い男女を意味しますが具体的な年齢は問題にしていません。必要なのは、【属性の区別】です。その後の一文で、男性である「おじいさん」は山で芝刈り、女性である「おばあさん」は川で洗濯という異なった作業をしています。しかも、川で芝刈りでも山で洗濯でもないのです。属性に起因する【拘束条件】があるのです。仮に「おじいさん」という属性を E 、「おばあさん」という属性を H であらわすと、それぞれの行動を $E(t, x)$ 、 $H(t, x)$ という『関数』で表すことができそうです。桃太郎関数、または一寸法師関数、はたまたかぐや姫関数を加えると主役者がそろいます。もしかしたら昔話全体は、関数の集まりで記述できるのかもしれませんが。

このように考えると幼児の脳は、極めて抽象性と論理性の高いお話をすんなり受け入れているように思えるのです。こんな全く具体性を欠くお話をおねだりまでして聞きたがる、そんな脳を持っているのです。そんな脳が、本格的な科学をどう受け入れるか非常に興味深い点です。ちなみに、マックスウエル電磁気学は電場 E と磁場 H (と電荷密度 ρ) で書かれるお話です。ストーリー展開は異なりますが。



3 「科学の日」プロジェクト

事の起こりは附属幼稚園の卒園遠足の行事でした。園を旅立つ年長さんを送り出すイベントの一つで、全園児が一緒になって大学内へ繰り出し、様々なところで体験的な学習を行います。理数教育研究センターもこの行事に参加してきました。理科棟内の実験室で、普段幼稚園ではできない理科実験を行います。例えば、液体窒素で凍らせたバナナで釘を打ったり、薔薇の花を粉々にしたり、段ボールに穴をあけて空気砲を作り見事な煙の渦輪を発生させたりと、大騒ぎの実験です。160名近い園児たちが入れ替わり立ち替わり来襲し(失礼)、学部生、院生、教員が一丸となって対応するという実にタフなイベントです。毎日、園児たちに接している幼稚園の先生方には頭が下がります。

こうしたドタバタの中の随所で感じたのは、子どもたちは思った以上に「理解しようとする」点です。なんでバナナで釘を打てるのか？きれいな渦輪を作るにはどうしたらよいのか？一通りの騒ぎが収まると理由を求めようとします。おそらくDNAレベルでプログラムされた好奇心がむくむくと顔を出し、「なぜなぜ攻勢」が始まります。

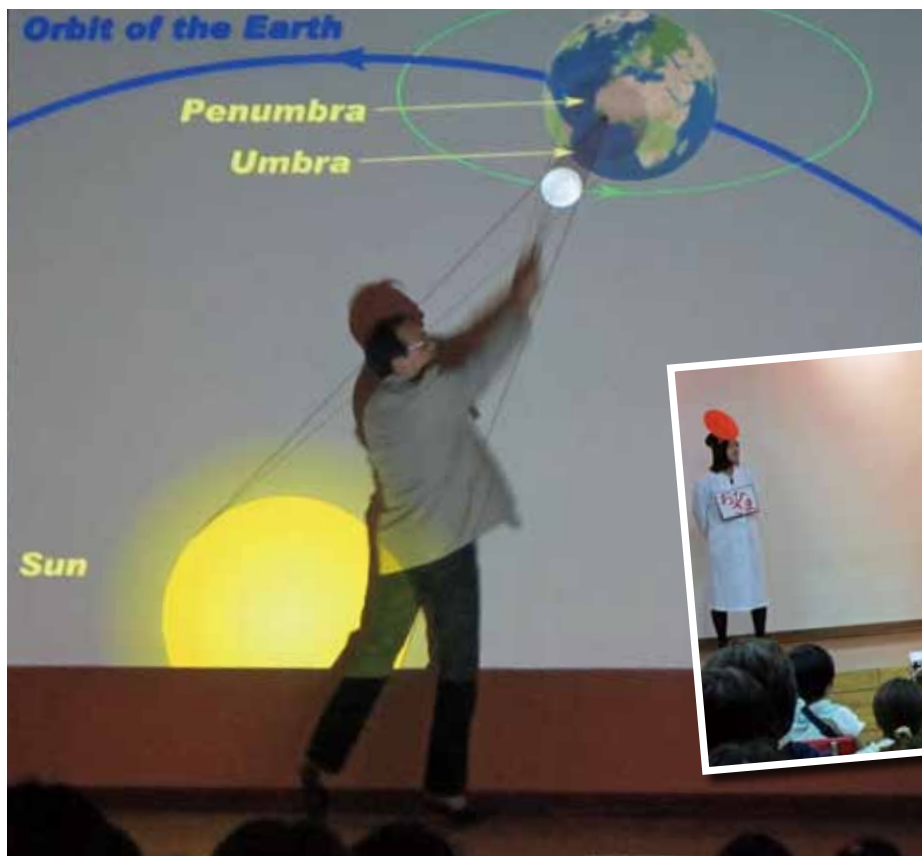
これを発端に新しい試みを開始しました。「科学の日」プロジェクトです。附属幼稚園の年長さんを中心に、理数教育研究センター企画の科学イベントを実施しようというものです。第1回目として、5月18日に金環日食勉強

強会を行いました。21日に奈良市では282年ぶりとなる金環日食が観測できたのですが、それを目前に、金環日食が起こる仕組みについて本学の理数教育プログラム参加の学部生・院生及び有志が寸劇によって解説を試みました。太陽さん、地球さん、お月さんが舞台を走り回り、天体の織り成す妙技に挑みました。さらに、保護者を対象として本学地学教室の和田穰隆教授による解説を行いました。

このプロジェクトには、もう一つ大きな意義を期待しています。子どもたちの前で我々は全ての専門用語や数式を封じられます。得てして、我々は専門用語一言で分かっているような気になっています。でも本当でしょうか？知識として獲得した衣服をすべてはぎ取られ丸裸になります。子どもたちのわかる言葉で、わかる理屈で本質を伝えなければなりません。これは本当にその現象を深く理解していなければできない超高難度のミッションです。その体験は、将来、教師になっていく学生らに相当のインパクトを与えます。究極の授業評価かもしれません。今後、「科学の日」プロジェクトは、継続的に実施される予定です。

4 おわりに

最後に一言。子どもたちは思っている以上に科学者です。その瞳が好奇心で輝くことを願っています。



金環日食勉強会の様子。
世紀の天体ショーに向けて理解を深めました。



クローズアップ

本学教員の研究を
詳しく紹介

どうして「私語」を するのか？

私語は「いいこと」？ 「よくないこと」？

さて、少々唐突かもしれませんが、まずは質問です。皆さんは、授業中の私語はいいことだと思いますか？ よくないことだと思いますか？ おそらく、ほとんどの人が「それはいけないことだ」という回答をするかと思います。

それでは、もう1つ質問です。皆さんは、いままでに私語をしたことはありますか？ この質問については、きっと、ほとんどの人が「したことがある」と答えると思います。つまり、私たちの多くは「私語はしてはいけない」と考えているのに、「私語をしている」という、ちょっと不思議な現状があるようです。

なぜ、「してはいけないこと」を するのか？

私語が持つ、このような奇妙な点は、これまでもいろいろな研究者たちに指摘されてきました(例えば、小牧・岩淵, 1997; 卜部・佐々木, 1999)。なぜ、私たちは、「してはいけない」と考えているにもかかわらず、私語をしてしまうのでしょうか。

この問いについては、実際に授業を受けている時間を想像してみると、答えやすいかと思います。ある授業で、あなたがひとり静かに授業を聞いているときに、隣にいる友だちが「昨日のサッカー見た？ 面白かったよね～」などと話しかけてきたとします。このとき、本当は「授業中に私語はしてはいけない」と思っ





ていたとしても、「そうそう、俺も見た見た〜。特に前半終了3分前に決めたシュートがさ〜」などと、一緒に私語を始めてしまうのではないのでしょうか。「今は授業中だから、その話はあとで…」という返事をするとは、なかなか難しいですね。では、なぜ難しいのでしょうか。これまでの研究(島田, 1999)では、相手が話しかけてきているときに、これを断ってしまうと、「相手に悪いかな」とか、「つきあいが悪いかな」などと考えて、このような返事ができなくなるのではないかと、という報告もなされています。

この場面では、「私語はしてはいけない」という規範と、「友人が話しかけてきたら、返事をしなくてはならない」という規範が2つあると思われます(出口, 2009a; 高木・村田, 2005)。ここで問題なのは、2つの規範を同時に守ることが難しいということです。そして、少なからぬ人が後者の規範に注目して、「私語はいけない」と思いつつも、「友人には返事をしなくてはならない」という規範を守るために、私語をしてしまっているのではないのでしょうか。

このように、「いくつかの規範があるとき、その場面で注目された規範が、その人の行動に影響を与える」という考え方は、心理学では「規範的行為の注目理論」と呼ばれています(例えば、Cialdini et al., 1991; 高木・村田, 2005)。この考え方に基づけば、授業中に私語をしている学生は、けっして規範を無視しているわけではなく、しっかりと規範に従っていることになります。ただし、その規範は「私語をしてはいけない」という規範ではなく、「友人には返事をしなくてはならない」という規範である、ということになります。

過去の研究では、私語をよくしている人は、対人関

係に関する適応度が比較的高いことが示されています(出口・吉田, 2005)。つまり、私語という「してはいけないこと」をすると、友だちと仲良くなれるかもしれない、ということになります。これに関連して、「大学では、いろいろな人と交流したい」と思っている人は、「私語はいけないことだ」と思っていたとしても(つまり、高い規範意識を持っていたとしても)、私語を頻繁にすることも報告されています。さらに、コミュニケーション能力(社会的スキル)が高い人は、私語をする頻度が高いということも知られています。

私語は「いいこと」? 「よくないこと」? その2

さて、これでは、授業中に私語することは「いいこと」で、しない方が「よくないこと」のような感じを受けられるかも知れません。しかし、もちろん、そんなことはありません。みんなが私語をすれば教室は騒がしくなり、教員の声が聞き取れなくなるなどして、授業を進めていくことが難しくなります。そして、自分たちだけでなく、他の人の勉強も妨害することになります。これは、当然のことながら「よくないこと」でしょう。しかし、その「よくないこと」をすれば、先ほど書いたように、「友だちと仲良くなれる」という「いいこと」が起こるかも知れないのです(出口・吉田, 2005)。

さて、ここでもう1回、質問です。みなさんは、授業中の私語はいいことだと思いますか? よくないことだと思いますか? なかなか難しい質問ですね。でも、これを読んでいる皆さんは、授業中の私語はなるべくしないでください。

「周りの人がしている」から 私語をする

さて、いろいろと書いてきましたが、人によっては、『友だちと仲良くなれる』から私語をしよう!とかなんて、いちいち考えないよ。周りがうるさければ自分も私語をするし、静かだったら、周りにあわせて静かにするだけだよ』と思った人もいるかも知れません。確かにその通りで、周囲の人たちが騒がしければ私語をしやすくなり、静かだったら私語はしにくくなりますね。このように、周囲の「状況」(騒がしいか、それと



出口先生を中央に、ゼミの学生たちと



も静か) も、私語を考える上で重要な原因の1つになります。現在、私が行っている研究(例えば、出口, 2009b) も、こういった「状況」に着目したものです。

仮に、教室のみんなが「周囲の人たちが騒がしければ私語をして、静かだったらしない」と考えていたとします。この時、もしも教室の一部が騒がしくなった場合、それが連鎖反応のようにどんどん周りに広がって、教室中が私語だらけになるのでしょうか。それとも、どこかで踏みとどまって、私語は広がらずに済むのでしょうか。実際には、両方のケースがありそうですね。だとしたら、教室中に私語が広がる場合と広がらない場合とでは、何が違うのでしょうか。

このことを明らかにしていくためには、いろいろなことを考える必要があります。例えば、ここでいう「周囲の人たち」とは、どのくらい遠くにいる人までなのでしょう。自分の座席の隣にいる人まででしょうか? それとも、隣の隣の人まででしょうか?あるいは、「騒がしい」と感じて私語をするのは、周囲の人たちのうち何割の人が話した場合でしょうか。5割? それとも3割? これらの問題については、まだまだ研究中といったところです。

「私語」について調べる ことの大切さ

ここまで読んで、「そんなことについて調べて何になるの?」と思う人もいるかも知れません。しかし、もしも私語が個人の問題だけではなく、周囲の「状況」によっても生じるものであるとしたら、学生や子どもたちに対して「私語はいけないことなのです」と、教員がいくら熱心に説明しても、私語はあまり減らせない可能性があります(なぜなら、「私語はいけない」ということは既にわかっているとしても私語をするのですから)。でするので、いろいろな観点から、私語について考える必

要があるのです。

また、例えば「私語」を、いわゆる「内職」(授業に関係のない課題等をする事)や「携帯メールの使用」などと読み替えてみたらどうでしょうか。これらは、授業中に行うにはあまり好ましくない行為とされています。これらの行為が、教室中に広がる場合と広がらない場合の違いがわかれば、教育に携わる人たちにとっては、ちょっと興味をひかれる知見になるかもしれません。このように、私語について深く検討していくことは、私語だけでなく、教室にいる人々の行動に関する、より一般的な法則を見つけ出すことにもつながるのではないかと考えています。



ゼミの様子

学校教育講座

でぐち たく ひこ
准教授 出口 拓彦

プロフィール

専門は、教室における規範逸脱行動。
名古屋大学大学院博士後期課程修了。日本
学術振興会特別研究員、藤女子大学人間生
活学部講師を経て、現職。学校心理士。

主に、心理学の教育場面への応用について
研究している。



『社会的迷惑の心理学』
(ナカニシヤ出版)
「授業中の私語に関する章を執筆」

ー引用文献ー

- Cialdini, R.B., Kallgren, C.A., & Reno, R.R. (1991). A focus theory of normative conduct: A theoretical refinement and reevaluation of the role of norms in human behavior. In M. P. Zanna (Ed.), *Advances in Experimental Social Psychology*. Vol.24. New York: Academic Press. pp.201-234.
- 出口拓彦 (2009a). 規範意識と社会的迷惑ー授業中の私語ー 吉田俊和・斎藤和志・北折充隆(編著) 社会的迷惑の心理学 ナカニシヤ出版. pp.135-148.
- 出口拓彦 (2009b). 教室における私語発生過程のセル・オートマトン法によるシミュレーション 教育実践総合センター研究紀要, 18, pp.117-124.
- 出口拓彦・吉田俊和 (2005). 大学の授業における私語の頻度と規範意識・個人特性との関連ー大学生生活への適応という観点からの検討 社会心理学研究, 21, pp.160-169.
- 小牧一裕・岩淵千明 (1997). 授業規範ー反規範行為における意識構造 日本心理学会第61回大会発表論文集, P.381.
- 島田博司 (1999). 私語の誘惑と人間関係 六甲出版
- 高木 彩・村田光二 (2005). 注目する規範の相違による社会的迷惑 社会心理学研究, 20, pp.216-223.
- 卜部敬康・佐々木薫 (1999). 授業中の私語に関する集団規範の調査研究ーリターン・ポテンシャル・モデルの適用 教育心理学研究, 47, pp.283-292.





ラボ・レター

— 学生による研究室紹介 —

学校教育教員養成課程 教科教育専攻 美術教育専修
(改組前: 学校教育教員養成課程 身体・表現コース
美術教育専修)
構成・デザイン

シーボルド千佳子
研究室



学校教育教員養成課程
身体・表現コース 4回生

なかしま ゆい な
中島 由衣名さん

兵庫県立加古川東高等学校出身

シーボルド研究室の紹介

私たちが所属する美術教育専修では、3回生に入ると同時に研究室配属が決まります。その中でもシーボルド研は、3回生の秋～冬頃から月一のペースでゼミが始まり、それぞれに卒業論文のテーマを考え始めます。自由に持ち寄った興味のあるテーマを出し合い、共有しながら、自分に合った研究内容を模索していきます。この、ゼミという情報を共有できる場があるおかげで、研究が現実的なものであるかについてなどを含め、先生はもちろん他のメンバーの意見も取り入れながら深めていくことができます。4回生の4月に研究内容が決まってからのゼミは、それぞれの進み具合を報告し合う機会となります。

卒業論文と併せて卒業制作もあります。これは、卒業論文の内容と関連する作品でも、関連しない作品でも良いものとなっています。平面や立体などの形態も自由で、これに関してもゼミで相談しながら決めていきます。卒業制作の作品は、毎年3月に奈良県文化会館をお借りして開催する卒展にて展示されます。

また、この研究室は出来てから今年で2年目という、新しい研究室であることも特徴です。そのため、これからどんどん好きな研究を進めていける、のびしろ満載の研究室です。

「好き」や「興味」を追求できる環境

私たちが今現在進めている卒業論文は、みんなそれぞれに全く内容が違います。デザイン研究室とひとえに言っても、例えば、パターンデザインに関することを研究している人もいれば、キャラクターデザインに関することを研究している人もいたり、幅広いデザインにまつわる研究ができる環境がここにはあります。それにより、本当に自分が好きなものや、興味のあることについて研究を進めていくことができます。先生は、私たちの「好き」や「興味」に寄り添って、意見をくださったたり、助言してくださったります。難しい問題に直面したときなどは、ゼミでそれを共有し、先生とメンバー全員で意見を出し合いながら共に考えていくため、自分の興味の範囲外のデザインのことにしても学べる機会となり、すごく楽しいです。

デザインとひととの関わり

私は、大学に入学してから、彫刻や工芸、油絵、日本画など、多くの新しい経験をしました。どんなことをするにも、自分らしさを出すことを考えていました。ある時、デザインの授業で先生が、「デザインは、自分のためじゃない、誰かほかのひとのことを考えてするものだ」とおっしゃいました。私はその言葉に「はっ」としたことを覚えています。それまでは、自分の好きなものを自分の好きなように描く、ということだけを楽しんでいたのだと思いました。たとえば、こどもの遊具をデザインする場合、色や形を自分の好みで決めるということではなく、その遊具を使って遊ぶこどもが興味を持つ色や形、遊具の安全性などを考えます。そのような、他者の立場に立って考えるという視点を持ち、使う誰かを思って、考え、制作していく姿勢が、デザインをする上で大切なのだと学びました。

卒業論文のテーマ

●色から感じる印象と色彩感情

私たちが配色を考えると、色の性質や効果だけでなく好みも関係してくる。制作だけでなく日常生活にも深く関わる色の役割や作用に興味をもったため、色の見え方や色の感情効果、色彩嗜好等について調べた。卒業制作では、ホルスト作曲「惑星」全7楽章それぞれのイメージにあった色彩を用いて制作した。

●日本のアニメーションから見る流行の変化

サブカルチャーは時代背景や流行、経済状況と関連がみられる。そのひとつであるアニメーションを取り上げ、その変遷と時代背景の影響を調べ、次に流行すると考えられるアニメーションの特徴を推測した。時代ごとの特徴の変化と、推測した次世代のヒロイン像を連作として制作した。

●造形美と機能美を探る—美学・美意識とデザインのかかわり—

身近にあふれている様々なものの「かたち」には作り手のどのような意図があるのか、そして「デザインする」とはどういうことなのか、美学・美意識という観点から探った。「造形美」と「機能美」をキーワードに、多様なかたちに対する私たちの見方を造形的に整理した。

Student's Voice

私は、戦後の日本漫画におけるキャラクターデザインの変化についての研究を行っています。年代ごとの主な漫画を基に、それと対応した年代における社会の出来事と関連付けながら、キャラクターデザインが変化してきたきっかけを探っています。今や世界で愛される日本漫画ですが、今現在のキャラクターデザインはどうやって生まれてきたのかの変遷を含め、これからもっと深めていきます。



学校教育教員養成課程
身体・表現コース 4回生

みづい ゆき
三井 有紀さん
私立開智高等学校出身





「考えたことは 外に出さなければならない。」

2012年4月、私は檀原市立大成中学校に着任いたしました。国語教諭として、忙しいながらも充実した日々を送っています。現在は1年生を担当しています。4月当初は初々しさが残っていた生徒達も、2ヶ月が過ぎて少しずつ中学生らしさが出てきており、成長の速さに驚かされています。また、積極的に挙手をし、意見を言ったり、音読をしたりと意欲的に学習に取り組む生徒が多く、生徒同士による活発な議論がなされることもよくあります。そういった生徒の良さをさらに伸ばすために、毎日教材研究に明け暮れています。部活動は陸上部を担当しています。練習の指導や大会の役員など、分からないことが多く、周りの先生方に助けられる毎日です。

私は大学時代、国語学について研究していました。研究は難しく、なぜだろうと考えることが多く、考えてもすぐには答えのないことばかりでした。また、導き出した答えも正しいという確証はなく、自分なりの答えが出せたら、ゼミの時間に先生や後輩に聞いていただきました。どんな反応が返ってくるか、ドキドキとワクワクが入り混じった何とも言えない気持ちだったことを覚えています。聞いてほしいという気持ちと、的外れなことを言っていたらどうしようという気持ちが交錯していました。しかし、自分の考えを他の人に伝えるということは、非常に大切なことであると感じました。意見を伝えることで、新たな発見に出会うことができます。正しいのかどうか分からないことを発表するのはためらわれますが、勇気を出して発表すると、新たな学びへとつながっていくことを学びました。

生徒たちは毎時間、一所懸命考えています。登場人物の心情について、文章のまとまりについて、文法についてなど様々なことを考えては、ノートに書いたり発表したりして、自分の考えたことを外に出しています。私は、初めての国語の授業の時に「考えたことは外に出さなければならない」ということを生徒達に伝えました。考えたことを自分だけのものにしておくのはもったいないことだと思っています。勇気を出して、1つの意見をみんなが共有できる形にすることで、集団の学びがより良いものになると考えています。

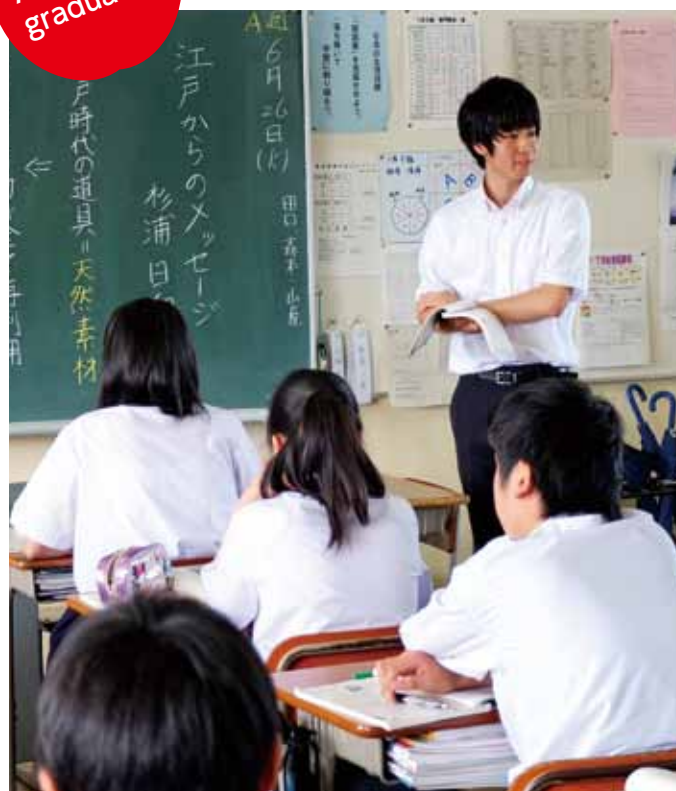
檀原市立大成中学校勤務
1年生学年係
やまだ さとし
山田 哲史さん
(言語・社会コース 国語教育専修
2012年3月卒業)



奈良県で行われた近畿地区国立大学体育大会にて準優勝を果たした学生時代



国語科の追いコン。加藤先生と後輩の清水さん



緊張感をもって取り組んでいます



奈教のひみつ

学生広報スタッフ
“なっきょん's CLUB”
企画

理科1号棟

学内施設紹介 ～理科棟～

通用門からまっすぐ進んで右手にある建物、それが理科棟です。

理科棟は理科1号棟と理科2号棟から構成されており、平成20年度に理科1号棟、平成22年度に理科2号棟の耐震・改修工事が行われ、きれいに生まれ変わりました。そんな理科棟にはどんなひみつがあるのでしょうか。



学校教育教員養成課程 理数・生活科学コース4回生
落合 絵未さん (奈良県立畝傍高等学校出身)



理科棟には理科教育講座や家庭科教育講座の先生の研究室や実験室が集まっているんだよ。

おもしろいものがたくさんあり
そう！早速行ってみよう!!
まずは理科1号棟から。



なっきょん

学校教育教員養成課程
理数・生活科学コース4回生
磯部 茜さん (奈良県立郡山高等学校出身)



理科2号棟

なっきょん食育塾



今年度は、学生企画活動支援事業に採択されて、より一層学生主体で活動していくんだって。家庭科教育だけでなく、奈良教育大学の学生みんなで取り組んでいくよ。



学生手作りのエプロンや帽子を着けたなっきょんの姿も…。

平成23年春に家庭科教育の学生が中心になって発足したのが、なっきょん食育塾。食や健康に関する様々な取り組みをしているんだって。ここには、活動の記録が掲示されているよ。この時は、実習園での米づくり体験学習公開講座の写真がいっぱい。

理科棟の中で枝豆、たまねぎ、かぼちゃを栽培。大きくなったので、この前実習園に植えかえたんだよ。



オープンサイエンスラボ

高校での理数科教育を支援するために設置された、地域の高校に開かれた実験室。連携校の生徒たちが訪れ、大学教員や大学院生等の指導のもと、実験に取り組んでいるよ。

理科1号棟には、理数教育研究センターの施設が設置されているよ。その一つ、オープン・サイエンス・ラボには、原理・法則を意識しながら、興味を持って実験に取り組めるような工夫を凝らした最新の設備がそろっているんだって。



カエルのケロとミミ



松井研究室の前でカエル発見！左がケロで右がミミ。奥吉野実習林の近くでつかまえたんだって。



仲良くなれやう
だね！



かわいいけど
さわれない...

理科2号棟へ...



理科1号棟も2号棟も
3階建て。
なのにエレベーターの
階数ボタンは6つ！
その理由は...



1号棟

2号棟

斜面に建っている
から！同じ階でも
高さが違うよ。

理科2号棟へ向かう途中には、
天文台への入口が。
(天文台については、ならやま
2011 夏号を確認してね)



奈良教育大学
天文台

緊急用シャワー



実験中に急に薬品を浴びた時などに使ったって。くさを引くと大量の水が出てきて、洗い流せるんだよ。廊下やトイレに設置されていて、理科棟ならではの設備だね。



留学生 レポート



- ① ロック・ヘイブン大学
- ② セントラルミシガン大学
- ③ 嶺南大学
- ④ 公州大学
- ⑤ 光州教育大学
- ⑥ 西安外国語大学
- ⑦ 華東師範大学
- ⑧ インドネシア教育大学
- ⑨ ハイデルベルク大学
- ⑩ ブカレスト大学
- ⑪ リヨン第三大学

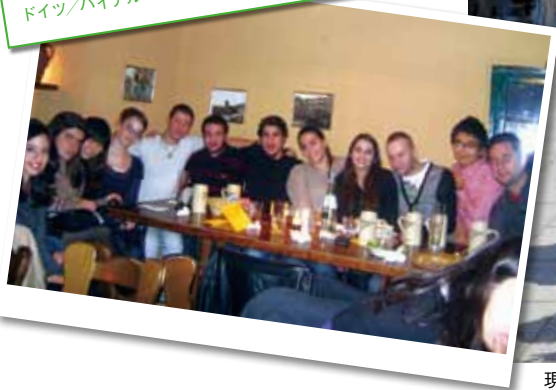
Interviewee



総合教育課程
環境教育コース・自然誌専修 4回生
私立大阪桐蔭高等学校出身

ふるかわ ひとみ
古川 仁美さん

ドイツ/ハイデルベルク大学 (留学期間 2011.9 ~ 2012.8)



現地で会った友人たちと

✚ 留学をしようと思ったきっかけは。

私は環境先進国と言われるドイツを自分の目で見たいなと入学当初から考えていました。チューター制度でドイツ人の女の子のチューターになりドイツの話を聞く度にドイツへの興味が増していったのがきっかけです。

✚ 留学する前にどれくらい語学の勉強をしていましたか。

正直、私は留学する前にほとんどドイツ語を勉強していませんでした。その為、ドイツに来てからはとても辛い日々もありました。私は勉強せずに留学に来てしまったことを後悔した日々もあったので、これから留学を考えている人は少しでも時間を見つけて語学を身につけてから留学することをお勧めします(私のように、ほとんど勉強せずに行く人も珍しいかもしれませんが)。

✚ 留学先ではどのような1日を過ごしていますか。

午前中はドイツ語の語学学校に通い、午後はタンデムをしたり、買い物に行ったり、図書館で勉強したり、友達と遊んだりしています。火曜日と木曜日の夕方は英語の授業を受けています。

✚ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

ペットボトルや瓶にデポジットがかけられており、スーパーに持って行き機械に入るとレシートが出てきてそれでお買い物ができることや、レジ袋がどこでも有料であり、ほとんどの人たちがマイバッグを持って来ていることです。

✚ 留学中一番うれしかったこと、逆に大変だったことは何ですか。

留学中一番うれしかったことは本当にたくさんあります。隣人に「ドイツ語が上手になったね!」と言ってもらえた時は本当にうれしかったです。逆に大変だったこともたくさんありますが(もう一人の隣人が爆音で音楽を聴き、注意をしてもやめてくれないことや、ドイツでは風邪では病院に行かないことなど)、今思えば貴重な経験ができたと思います。

✚ 留学体験をどのようにいかしていきたいと思いますか。

留学を経験し、本当にたくさんのことを学びました。しかし、この経験をどのようにいかしていけるのかまだわかりません。まずは日本での自分の生活の中に留学で学んだことを取り入れていきたいと考えています。また、この学んだことを自分の学びだけでなく共有できるように、人にも伝えていきたいと思っています。

✚ 在学生、高校生の皆さんに一言。

留学での経験は本当に人生の宝物になりました。是非機会があれば一人でも多くの人が留学

を経験できればいいなと私は思います。今しかできないことを探してください。





ハイデルベルク大学（ドイツ）

本学の国際交流協定校の一つであるハイデルベルク大学（1993年4月交流協定締結）は、ドイツ最古の歴史を持つ大きな大学です。世界各国からの留学生も多く、様々な国の人と出会うことができます。またハイデルベルクは「大学生の町」とも言われ、古い建物や城、博物館、劇場もある文化的、歴史的な町です。

今回は本学からハイデルベルク大学へ留学している古川仁美さんと本学に留学しているウェーバー モーリス ミヒエルさんに話を聞きました。



留学生の友達と飛鳥で



奈教と奈良女子大の水泳部のみんなと一緒に

✚ 留学をしようと思ったきっかけは。

大学で日本学を専攻しているので、日本語の上達のためにもぜひ日本に来たかったです。

✚ 留学する前にどのくらい日本語を勉強していましたか。

ハイデルベルク大学で2年半日本語を勉強しました。

✚ 現在奈良教育大学の学生としてどのような1日を過ごしていますか。

毎日授業があります。授業がない時も図書館で授業の準備をします。ドイツでは通学時間が長かったのですが、奈良では寮に住んでいるので友達にゆっくり会えます。4月からは水泳部で1週間に6日、2時間半ずつ練習しています。週末には大神神社の和太鼓クラブにも参加しています。

✚ 留学生活で一番驚いたことは何ですか。

驚いたのはたばこです。日本では駅のホームなど建物の外では禁煙でも、レストランなどでは喫煙できます。

それから、富士急ハイランドに行ったとき、4時間も並んでジェットコースターに乗りました。ドイツでは4時間も並ぶ人はいないと思います。

✚ 留学中一番うれしかったことは何ですか。

まず、日本で初めて一人暮らしをしたことです。

それから、3月に初めて富士山を見たことです。朝5時半に見た富士山は完璧な姿で言葉がないほど感動しました。夢のようでした！



初めて富士山をみた！感動！！

✚ 留学体験をどのようにいかしていきたいと思いますか。

帰国後は和太鼓の研究をしたいと思っています。大神神社で出会った和太鼓はとても素晴らしいです！そして、卒業したらぜひ日本で就職したいと思うようになりました。

✚ 日本の大学生、高校生の皆さんに一言。

私は日本に来てできた日本人、留学生の友達とこれからもずっと付き合っていくと思います。機会があれば、ぜひ皆さんも留学してみてください。一人で海外で生活すると自信と一生の友達が得られます。



キャンパスで輝く学生を紹介

キラリ 奈教生



【左：新宮さん 右：中澤さん】 大学付近の文化財、奈良のピラミッド「頭塔」を訪ねて

Profile★ プロフィール

ユネスコクラブ 部長

教育学研究科専門職学位課程(教職大学院) 1回生

あらみや わたる

新宮 済 さん

副部長

教育学研究科専門職学位課程(教職大学院) 1回生

なかざわ てつや

中澤 哲也 さん



第2回道普請にて。崩壊した道の修復

世界遺産を自分たちの手で ～十津川道普請に取り組むユネスコクラブ～

2011年9月、台風12号により世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の古道が被災しました。その古道を修復する「道普請」(奈良県や十津川村との連携により実施)に参加している学生がいます。奈良教育大学ユネスコクラブの学生たちです。そんなユネスコクラブで中心となってメンバーをまとめる部長の新宮さんと副部長の中澤さんに話を聞きました。

教員を目指す学生にとって聖地みたいなクラブ

ユネスコクラブは、本学が日本の大学で初のユネスコスクール加盟校ということもあり、ESD(持続発展教育)に強い教員の育成や、身近にあるものをテーマに教材を作り、物事を考えられるようになることを目指して2011年に結成されました。自分の好きな奈良の場所や食べ物をみんなに知ってもらうために、実際にフィールドワークを行う「私の好きな奈良」という活動や地域の小学校での「親子燈花会」、奈良のユネスコスクールの小中学生と一緒にESDを学ぶ「ASP子どもキャンプ」をしたりなど、子どもたちだけでなく現職教員とも関わる機会が多くあります。「将来教員を目指している方には聖地みたいなクラブですね」と中澤さんは話します。

世界遺産の『道』を修復する

参加のきっかけは「十津川村で世界遺産の『道』を修復するボランティアがあるから、ユネスコクラブでちょっとお手伝いしに行こか」という感じで、ほんの軽い気持ちだったと言います。

道普請では、現地の方の協力を得ながら、トンガやジョレンという道具を使って、「道」を作り直していきます。約2時間かけて山を登ってからの作業となるためかなりハードで、道が完全に崩れているところもあるなど修復の難しさを感じる場面も多かったそうです。しかし、「夢中になって作業を続けている中で、何気なく後ろを振り返ってきれいになった道を見た時にはとてもやりがいを感じた」、「自分が誰かのために少しでも役に立っている、世界遺産を修

復していると考えたら、とても気持ちが良くなる」と話してくれました。また、十津川村の方々との交流も楽しみの一つだそうです。

ボランティアの何が楽しいのか？

「実は道普請に参加する前はボランティアの何が楽しいのだろうという気持ちでした」と中澤さん。しかし実際に道普請に参加してみると、かなりの達成感を得ると共に、作業させてもらってありがたいという気持ちになり、また村の優しさに触れ暖かい気持ちでいっぱいになったということです。「とにかくボランティアは、実際に行ってみないとわかりません。」

メンバーは、今回の活動で、人と関わることの楽しさやおもしろさを感じたそうです。「いろいろな人と交流することで、これまでにない新しい見方、考え方に会えることができます。これからたくさんの人と関わっていき、自分のなかの“つながり”を広げていきたい」と目を輝かせていました。

ユネスコクラブの目指すもの

最後に、新宮さんがユネスコクラブの今後の目標について話してくれました。「ユネスコクラブの目標は大きく3つあります。1つ目が『道普請』の継続。このように素晴らしい十津川道普請への参加を継続し、成長の糧としていくことです。2つ目が『奈良ESD子どもキャンプ』(会場：奈良教育大学)を成功させること。奈良市内のユネスコスクールの子どもたちが参加するキャンプに、学生リーダーとして参加します。現在は夏の本番に向けて、現場の先生方に交じって企画を練っています。このキャンプが子どもたちの一生の思い出になるようにしたいと考えています。3つ目が『つながり』を全国に広げていくことです。私たちは全国の大学のユネスコクラブが一室に会してESD活動の成果を発表し合う学びの場を構想しており、そのために他大学のユネスコクラブを訪問し交流することで『つながり』を結んでいきたいです。」

ユネスコクラブの活動は以下HPに随時掲載されています。

<http://nueunesclub.web.fc2.com/>



ブカツ魂!

奈良教育大学には、文化会所属13団体、体育会所属27団体の課外活動団体があり、多くの学生が仲間とともに活動しています。ここでは、そんな課外活動を紹介します。今回は、ウインドアンサンブルです。

文化会

- ギターマンドリンクラブ
- ウインドアンサンブル
- 軽音楽部
- 華道部
- 茶道部
- 合唱団コールグレイス
- 劇団キラキラ座
- (障がい者問題研究会) すぎのこ
- 書芸部
- 漫画研究会
- 歴史研究会
- 舞台工房KATE
- 地歌争曲部

体育会

- 合気道部
- 弓道部
- 剣道部
- 男子硬式テニス部
- 女子硬式テニス部
- 硬式野球部
- 男子サッカー部
- 女子サッカー部
- 準硬式野球部
- 少林寺拳法部
- 水泳部
- 創作ダンス部
- 男女ソフトテニス部
- 男子ソフトボール部
- 女子ソフトボール部
- 卓球部
- 男子バスケットボール部
- 女子バスケットボール部
- バドミントン部
- 男子バレーボール部
- 女子バレーボール部
- 男子ハンドボール部
- 女子ハンドボール部
- ラグビー部
- ワンダーフォーゲル部
- 陸上競技部
- 柔道部

pick up

文化会 ウインドアンサンブル 部員数 40名(男子3名・女子37名)

私たち、ウインドアンサンブル部は、基本的に水・木・土の週3回練習しています。部員は4回生12人、3回生11人、2回生7人、1回生10人の計40人で、部員の中には奈良女子大学や奈良県立大学の学生もいます。毎年12月に奈良県文化会館で定期演奏会を開催しており、今年は12月27日に開催します。

全員で一つのものをつくる ～一つの目標に向かって～



教育学部 教育・発達基礎コース
幼年教育専修 3回生
大阪府立生野高等学校出身
ウインドアンサンブル部長
ほし のり
樋渡 友理さん

私たちウインドアンサンブル部は、いわゆる吹奏楽部です。規模は少し小さめですがその分部員同士の仲が良く、日々楽しみながら、励ましあいながら活動しています。年間2回の演奏会をはじめとして、幼稚園や小学校や福祉施設への訪問演奏も行っており、幅広い年齢層の方々に私たちの演奏を聴いていただいています。4月には新入生が入部し、新体制になって一層明るくにぎやかになりました。なかには初心者部員もいますが意

欲的に練習に励み、また、先輩が一つひとつ優しく丁寧に教えている様子がよく見られます。演奏会という一つの目標に向かって全員で一つのものをつくっていくことが、吹奏楽の最大のやりがいであると感じています。部員の数が少ないので、誰一人欠けてしまっても演奏が成り立ちません。しかし、逆にいえば全員が必要とされているということになります。部員の多いバンドでは、確かに音楽に迫力が出るし、できることは多いと思います。しかし、私たちのバンドは、全員がいなければ成り立たないからこそ、全員がかけがえない存在であり、気持ちを一つにして演奏会に向かってがんばっています。



部活に積極的に取り組み、気持ちを一つにして一つの音楽をつくるためには、全員が一丸となって練習に励み、曲のイメージを共有することが必要です。こうすることによって、全員が一体化することができるのです。同じ時間に、同じ場所で、みんなが主役となって同じ気持ちで何かに取り組むなんて、なかなか機会がないことだと思います。それができるのが、吹奏楽の良さであると、私は考えています。これからも部員一同よりよい音楽を目指して積極的に吹奏楽に取り組んでいきたいと考えています。

活躍する奈教生

『ウインドアンサンブル 楽器ふれあいコンサート』

ウインドアンサンブルでは、依頼のあった地域の小学校や幼稚園、福祉施設などを訪問して体験型の演奏会を開催する取り組み「楽器ふれあいコンサート」を行っています。生の音楽を聴いてもらうことで、音楽の楽しさを伝え、普段触れることのない楽器に直接触れてもらうことで、楽器に興味を持ってもらうことを目的としています。

楽器ふれあいコンサートでは、それぞれ依頼者のニーズにあった楽曲を選択し、手作りのマラカスを振ってもらって子ども



依頼者のニーズに合わせた楽曲を演奏

ちなどと一緒に音楽を作り出したり、楽器紹介や楽器当てクイズで楽器の音や特徴を知ってもらったり、また直接楽器に触れてもらう時間も設けたりと、実際に参加・体験してもらえよう様々な工夫が凝らされており、好評を得ています。

この活動は、学内で毎年募集されている「学生企画活動支援事業^{※1}」に何度も採択されており、学内でも一定の評価を得ています。



実際に楽器にふれてみよう

ソロプチミスト 認証式



認証式で謝辞を述べる
樋渡部長

認証状を授与される
樋渡部長

また平成24年度には、楽器ふれあいコンサートの活動実績が認められ、国際ソロプチミスト^{※2}より支援をしていただけることとなりました。

このように学内外においてこの取り組みは高く評価されており、今後のより一層の活躍が期待されます。

※1 学生自ら事業を企画し、そのうち優れたものに対して大学が経済的支援を行い、学生自身に実体験させることにより企画力・実践力・社会性を身につけさせ、優れた教員等の養成に資することを目的として実施しています。
※2 管理職、専門職に就いている女性の世界的組織で、人権と女性の地位を高める奉仕活動を行っています。その活動の一つとして、地域社会における青少年の奉仕活動を奨励し推進するというプログラムを実施されており、その一環として支援していただけることとなりました。



1月11日



意見交換する参加者

第5回大学懇談会を開催

日頃接点の少ない地域や後援会、同窓会の方々と学生及び教職員が自由に語り合うことで交流を深め、大学の活性化につなげることを目的として、学生中心の実行委員会により企画、開催されました。

当日は、長友学長、同窓会会長をはじめ、学生を含め約80名が参加、リラックスした雰囲気のなか、「大学と地域の交流」など6つのテーマに分かれて意見交換が行われました。

2月16日



学生と意見交換する長友学長

学生と学長との懇談会を開催

学生と学長がお茶を飲みながら気軽に意見交換し、学生の生の声を今後の大学運営にかすことを目的に実施し、17名の学生が参加しました。

長友学長の挨拶、参加者の自己紹介に続き、

学生から授業内容や課外活動などについて広く意見が出されました。それに対して長友学長が一つひとつ丁寧に、時には自身の体験やアドバイスを交えつつコメントしました。

4月13日



集合写真に納まる参加者たち

春季留学生懇談会を開催

学生食堂(愛称:なっきょん食堂)にて、今年4月に入学した留学生の歓迎と、学生・教職員間の交流を目的に開催されました。

留学生約40名をはじめ、日本人

学生約30名、大学役員・教職員ら総勢90名が出席。多くの日本人学生が参加したこともあって、学生間の国際交流が深まり、終始和やかな懇談会となりました。

4月18日



成果を詳細に説明している様子

平成23年度学生企画活動支援事業報告会を開催

平成23年度に学生企画活動支援事業(学生自らが企画した事業のうち、優れたものに対して大学が経済的支援を行う)として採択された5つの団体が、1年間の活動を通じて

得たことや反省点などを報告しました。学生委員会委員や聴衆の学生からは、今後の課題となる点、質問や意見などが積極的に出されました。

6月6日



調印を終え握手する鈴木 KEK 機構長(左)と長友学長(右)

高エネルギー加速器研究機構と連携協力協定を締結

高エネルギー加速器研究機構(KEK)との間に、「相互に連携協力することにより、教育及び研究成果の社会への還元を推進するとともに、その活動によって大学における教員養成機能の充実と高度化及び KEK における社会貢献活動の充実・発展に資すること」を目

的とした連携協力協定を締結しました。

教員養成系単科大学と世界的水準にある最先端研究機関との連携は初めての試みで、理数科教員養成と小学校、中学校、高等学校での理数教育における大きな成果が期待されます。

6月7日



協定書を掲げる上田大和郡山市長(左)と長友学長(右)

大和郡山市と連携協力協定を締結

大和郡山市との間に、「教員の資質の向上及び教員養成の充実を図るとともに、教育上の諸問題等に適切に対応することにより、大学及び市における教育・研究の充実・発展に資すること」を目的とした連携協力協定を締結しました。

これまで、理数系の学生を大和郡山市の小・中学校に派遣し、授業や個別指導の補助を行うなどの事業を実施してきましたが、今後は、理数系に限らず学生の力量形成のための交流についても検討していく予定です。



附属学校園関連

3月4日～6日



全校美術展風景



附属小学校で全校美術展を開催 ～くらしから生まれ、くらしをつくる美術展をめざして～

附属小学校が、互いの作品を鑑賞し合う『全校美術展』を開催しました。

1～4年生、特別支援学級は学級ごとに題材を決めて、生活の絵か物語の絵に、5年生は『冬のくらし』の絵に取り組みました。校区が広い附属小では地域や家庭でのくらしを知り合う機会が少なくなりがちなので、学校外のことも知り合わせたいと考えて取り組みました。また6年生は、卒業に際して、問い

直し、見つめ直し、描き残しておきたいことを題材にしました。原爆の被害を知ったヒロシマ旅行、長く続けてきた少年野球。「この姿こそぼく・わたしだ」という作品が並ぶと、下の学年の子もあこがれの気持ちを持つようです。全校美術展は、子どものくらしから生まれた子どものくらしのための美術展です。

この美術展は、大学の教職員はもちろん、地域の方々にも公開しました。

3月6日



食材あてクイズを楽しむ園児たち

附属幼稚園園児が大学探検

卒園間近の年長児と、年中・年少児との縦割りグループが、大学探検遠足で遊びに来ました。普段入ったことのない大学講義棟内をドキドキしながら歩き、研究室や図書館の絵本の部屋など7ヶ所のポイントを回りました。理数センターで空気砲の実験に参加したり、技術棟でロボットを見たり、

家庭科教育講座で食材あてのクイズをしたり、特別支援教室の遊具で遊んだり新しい発見や驚きのあふれる盛りだくさんの時間を楽しく過ごしてもらいました。参加してくれた学生たちも園児との触れ合いを楽しみ附属幼稚園がある大学ならではの体験ができました。

5月19日～22日



魂魄の塔で平和ガイドの話を聞く生徒たち

附属中学校3年生が修学旅行で沖縄へ

3年生が3泊4日の日程で沖縄へ修学旅行に行きました。1日目、魂魄の塔の前での平和集会の後、平和祈念資料館、平和の礎を巡り、避難壕であるガマへ向かいました。また、宿泊先ホテルで「平和の語り部」の方の戦場での凄惨な体験に耳を傾けました。2日目は学生ガイドの方達と沖縄戦跡を回り、役場での入村式を終えて3日目にお世話になる民

泊先のお宅へ移動しました。3日目の午前中は、現地での体験活動をした後、午後はマリンスポーツを満喫しました。最終日は、世界遺産の首里城を見学し、国際通りでの班行動の後、那覇空港から帰路につきました。沖縄での4日間は、時間と空間を越えて、今ここにいることを確認する旅だったのかもしれない。

奈良に息づく仲間たち



自然環境教育センター長
教授 鳥居 春己



ノアザミ

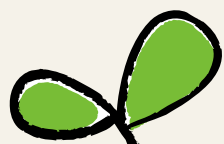
春に咲く、キク科の多年生草本で、本州から九州に自生する。数多いアザミ類の中で春に咲くのは本種だけである。学内では図書館南の保存緑地で咲いているが、それはどうやらシカの影響だと思われる。保存緑地にはこの2～3年は丈

の高い単子葉草本が伸び、ノアザミはその中に隠れるように咲いていた。しかし、今年は単子葉草本がシカに食べ尽くされたのか草丈が伸びていない。ところがアザミは数を増やし、草丈ものぼしている。シカはアザミを食べない訳ではないが、それほど好まないようで、先端部だけが食べられている。同じ場所で繁茂している雑草を2011年秋号に紹介しているので、その時の写真と比べてほしい。時期が違うためかもしれないが、生育している植物も違うように見える。

棲みついたシカによる影響が植生に現れ始めていることを示すのだろう。



奈良 教 生 に



聞きました!

vol.5

こんな教員になりたい

教師になることを目指して奈良教育大学に入学した新入生の皆さん。それぞれどんな教員になりたいのでしょうか。その熱い思いを聞きました。

子どもたちと同じ目線に立ち、子どもの行動の理由をきちんと考えられる教員になりたい。

なかい じゅんぺい
中井 淳平さん(国語教育専修)

一緒にいて楽しい! 落ち着く! と子ども達に思ってもらえるような幼稚園か小学校の教員になりたいです。

やくしじん まき
薬師神 麻希さん(幼年教育専修)

子どもたちは、遊びを通して協調性や社会性などを自然に身につけていくと考えます。遊びを大切に、共に楽しんでいける教員になりたいです。

たなか ちさと
田中 千智さん(幼年教育専修)

子どもたちを温かく見守り、子どもの成長や心の動きを敏感に感じ取ることができる、子どもたちに安心感を与えられる教員になりたいです。

たなか まい
田中 舞さん(幼年教育専修)

子どもの伝えたいことを受け止め、新たな発見や気付きを活かすことができるように、子どもと同じ目線に立って接することのできる教員になりたいです。

もりかわ なみ
森川 奈美さん(幼年教育専修)

子どもたち全員がのびのびと笑顔で過ごせる教室を作り、楽しい気持ちをみんなで共有する時間をたくさん提供できる教員になりたいと思います。

ふなこし さき
舟越 咲紀さん(幼年教育専修)

人とのつながりを大切にできる教員になりたい。個性を生かし、みんなで一つのことを乗り越える中で仲間の大切さを知り、心から楽しいと思えるような場を作りたい。

いまきた ゆうき
今北 由姫さん(幼年教育専修)

恩師に様々な面で支えていただいた経験から、生徒との距離が近い教員になりたい。次は私が教員として生徒を支えたいです。

おくの まさとよ
奥野 正豊さん(教育学専修)



弊誌に関するご意見・ご感想を貼付のアンケートハガキでお寄せください。また、QRコード対応の携帯電話にてアンケートに回答いただくこともできます。皆様からのご意見・ご要望お待ちしております。



なつきょん's
CLUB

広報誌づくりなど、広報活動を手伝ってくれる学生広報スタッフを募集しています。興味のある方は総務企画課広報担当まで、お気軽にお問い合わせ下さい。



国立大学法人
奈良教育大学

奈良教育大学 広報誌『ならやま』

第40号 平成24年7月31日 編集/広報委員会 発行/国立大学法人奈良教育大学

3月・7月・10月各下旬発行

〒630-8528 奈良市高畑町 TEL.0742-27-9104 FAX.0742-27-9141 Email: kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp

※広報誌『ならやま』は大学ホームページからもご覧いただけます。

<http://www.nara-edu.ac.jp/>